

みんなでつながって解決

佐々木博規 | 京都女子大学附属小学校

1. 学校で勉強するよさ

一人ひとりの児童にタブレット端末などICT機器を使った学習が取り入れられることで、学びが多様化し、場所を選ばずに一人で学習できるようになりました。その一方で、学校で学ぶ理由やよさとは何かが問われるような時代になってきました。

私はある先生との出会いから、学校で学ぶよさについて次のように考えるようになりました。課題に対してわからなかったり、迷ったりしたときに、友だちと気軽に相談しながら自分の考えを整理し自信を持たせることではないかと。私たち教師も迷ったり、わからなくなったりしたときは、同僚に相談し、みんなで解決しようとしています。日本や世界の将来を担う子どもたちにも同じことが言えるのではないのでしょうか。社会科では、次の3つのプロセスを大切にしようと考えました。

2. 導入で大事にしたいひとり学習

例えば、「工場が集まっているのはどういうところか」という学習課題に対して、まず、一人で考える時間を取ります。大切にしたいのは、資料を読み取ること。社会科だと以下のものを使用します。

- ① 教科書の写真(挿絵)や地図
- ② ノート(特に、過去の学習)
- ③ 自分の旅行の経験談など

情報量を絞りたいときは、必要な資料をロイロノートで配ります。立地条件などさまざまな角度から考えさせます。

ひとり学習では、机間巡視をする中で、子どもたちの考えの根拠を尋ね、次の学習につなげます。

3. 少人数で考えを交流し、幅を広げる

次は、自分の考えを隣の席の子どもたちと交流します。自分の意見を伝えるときは、根拠を示す資料を用いながら伝えるようにします。すると、自然と隣の人から賛同、否定など感想が聞けます。また、隣の人からちがった考えを聞くことで資料をみる視点など幅が広がります。

実際、「工場が集まっているのはどういうところか」という学習をある班で意見の交流をした時は、「平らなところに工場が集まる」や、「工場は水を多く使うので川や海のそばに集まる」から、平野など地形に注目したつながりのある意見が生まれました。



▲少人数での交流の様子

4. 学級全体で、幅広い意見から共通認識をはかる

地形をもとにした班の意見と「内陸に工場が集まっている地域には高速道路が走っている」という班の意見が出ると、地形をもとにした考えの班からは、「平野は海に近く、船で製品を運べるので工場が集まるのではないか」というさらに深まりのある意見が自然と生まれます。また、「大都市やその近くに工場が集まる場所が多い」という意見からは、工場が集まる場所には、地形だけでなく、人口も関係するのではないかという考えも生まれます。

学習のまとめとして、工場が集まる地域には地形、輸送手段といった複数の条件があるということが、学級内に共通認識されます。

自分と友だちの考えた意見をつなげて考えることによって、集団の中で学習するよさや安心感を子どもたちに味わわせていきたいものですね。